

長浜市 雇用・景況アンケート調査結果の概要(令和4年3月)

【調査概要】

- | | |
|----------|------------------------------|
| 1 調査時点 | 令和4年1月 |
| 2 調査対象期間 | 今期 令和3年1月～12月 来期 令和4年1月～12月 |
| 3 前回調査時点 | 令和3年1月 |
| 4 調査事業所 | 概ね20人以上の従業員を有する長浜市内の事業所 259社 |
| 5 回収率 | 49%(回収件数 127社) |

【結果概要】

■景気について

(1) 令和3年の状況

DI指数^{※注}は14.2と、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症とする）の影響を大きく受けた令和2年の▲51.4から65.6ポイント増加しており、回復傾向にあるとみられる。しかし、令和元年と比較した令和3年のDI指数は▲26.8であり、感染症流行前の景況には戻っていない状況にある。

※注【DI指数】増加・好転とする企業割合から減少・悪化とする企業割合を引いた値

(2) 令和4年の見通し

DI指数は1.5であるが、「変化なし」に次いで「見通せない」が多いことから、令和3年の景気が一定維持される一方で、先行き不透明感もある。業種別にみると、「卸売業・小売業」「製造業」「サービス業」のDI指数はプラスであるものの、「宿泊業」「金融・保険業」「医療・福祉業」「建設業」「運輸業」はマイナスであり、業種により業況の回復状況が異なっている。

■雇用情勢について

(1) 令和3年の状況

令和2年と比較すると、正規雇用従業員数および派遣・請負・期間労働者数のDI指数がともに増加しており、人手不足感に転じている。令和3年度の採用状況は、前年同様「計画通り採用した」の割合が最も多い(38.6%)ものの、次いで「募集しても集まらなかった」が多く(33.9%)、人材確保に苦慮している事業所も多い。また、雇用調整助成金を利用している事業所は令和2年から半減しており(42.4%→20.6%)、人手不足感の傾向からも、雇用調整の必要性が低かったと推察される。

(2) 令和4年の見通し

採用計画のある事業所の割合が増え、採用人数も全体的に増加傾向であることから、人手不足感が続くと推察する。令和4年の業況見通しのDI指数がマイナスである業種でも1人以上の採用を計画していることから、景気の動向に関わらずどの業種も人材確保に取り組んでいる。ただし、感染症が雇用に与える影響には引き続き注意する必要がある。

■高齢者の雇用状況について

定年退職の年齢は「60 歳」が最も多かった。65 歳以上の高齢者の雇用については、「すでに雇用している社員は継続雇用を希望したい」が 86 件と最も多く、次いで「積極的に雇用したいと思わない」が 38 件となった。高齢者に適した仕事が無いことや、体力面・健康面の心配を理由に高齢者雇用に消極的な事業所がある一方、社員の継続雇用に意欲のある事業所も多い。

■設備投資について

令和 3 年の設備投資計画のあった事業所は 73.8%と非常に多く、感染症の影響などにより、一部で計画の縮小・保留があったものの、最終的に「設備投資を実施した」が 61.9 %となり、令和 2 年と同水準であった。

令和 4 年の見通しでは、DI 指数が 23 ポイント減少するものの依然としてプラスであり、設備投資への意欲は維持され则认为る。

■行政への要望

「人材確保への支援」が 47.2%と最も高く、次いで「補助金・融資制度の種類の拡充」が 32.3%となっており、業況の回復に伴い人材確保や事業の維持・立て直しに取り組む事業所が多いと推察される。続いて「デジタル化への支援」が 29.9%で 3 番目に高く、業務の効率化への意欲を感じる結果となった。

また、令和 2 年と比較すると、「補助金・融資制度の種類の拡充」の割合が 21.2 ポイント減少（53.5%→32.3%）し、「人材育成への支援」「人材確保への支援」「働きやすい職場づくりへの支援」がそれぞれ増加していることから、人材確保が困難な状況において、人への投資に対する支援を望む方に意識が変わりつつある。